

# 神奈川県内収穫量 1 位！小田原の梅

## 500年前から植えられていた

小田原では、北条氏が治めていた時代から栽培されていた梅。梅の栽培は、大久保忠真の時代に窮乏する藩財政の救済として奨励され、その後、箱根越えの旅行者が増加したことなどから急速に広まりました。梅は弁当の傷みを防ぎ、道中の疲労回復に効果があるとされ、携帯用として食べられていたことから「東海道中膝栗毛」に「梅漬」小田原の名産として登場します。現在、梅が最も栽培されている曾我梅林では、2月になると富士山や箱根の山々を背景に約3万5千本もの白梅が見事に咲き誇ります。この地で生まれた十郎梅は梅干にすると、皮が薄く、肉厚でなめらかということで梅干用品種の最秀品とされています。



**曾我梅林**  
栽培面積は県内の3分の1  
収穫量は県内の2分の1  
(平成18年度調べ)

梅

みかん

オリーブ

イチゴ

畜産

産

水

稲

## 小田原の梅栽培

熟した梅を一つ一つ丁寧に摘み、土用干しもやはり手作業で行います。手間を惜しまない丁寧な作業です。



2月 梅の開花(梅まつり)



6月 梅の収穫



7月 土用干し

## これまでの取り組み

- ・小田原十郎梅プレミアム梅干「雲上」の販売
- ・小田原十郎梅収穫体験ツアーの実施
- ・小田原十郎梅ロゴマークの作成、商標登録



小田原十郎梅プレミアム梅干「雲上」



小田原十郎梅ロゴマーク

## 小田原地域で栽培される主な品種

### 十郎 (じゅうろう)

神奈川県農事試験場園芸部で、足柄上郡の在来実生より選抜され、昭和35年に小田原市梅研究会が命名した。開花期は特に早く、果実は楕円形で小さく果皮が薄い。果肉は良好で果肉歩合が高く、熟すにしたがって黄色になる、梅干用品種の最秀品である。収穫期は、6月中・下旬である。  
梅干用品種。

### 南高 (なんこう)

内田梅の実生樹の中から選定された結実の良い品種である。開花期はやや早く、結実性も良い。  
梅干用品種として優れている。

### 白加賀 (しろかが)

江戸時代から加賀白梅の名で栽培されてきた古い品種である。ほぼ全国的に栽培され、特に関東地方では結実が安定し、大果で品質が良好であるため、多く栽培されている。開花期は晩く、果実は楕円形で大きい。果肉は厚く肉質が密で、主に梅酒用に適する。収穫期は5月下旬・6月上旬である。  
梅酒用品種。